

友松対談 ①

座談会「懐かしき師範の時代を語る」



出席者 白石孝徳 (S22 年卒) 間邊典夫 (S23 年卒)
石川武士郎 (S24 年卒)
途中出席 齊藤支部長(森中校長)

司 会 黒川鈴谷 (S35 年 学芸学部卒)

(写真は左から白石、間辺、石川の各氏)

司会 本日はわざわざお集まりいただきまして、ありがとうございます。実は白石先生は私が南太田小学校(当時は国民学校)に在学していた時に、その学校の先生だった方です。ですから私の準恩師とも言うべき方で、私は今日ちょっと緊張しております。白石先生、あれは昭和 17~19 年頃のことですね。あの頃、先生はまだ代用教員でしたか。

白石 そう、代用教員で高等科の生徒に「英語」と「商業」と「簿記」を教えていました。
司会 石川啄木も代用教員だったのですが、この代用教員というのが良く分かりません。どんな資格が必要で、誰が任命するのですが。

白石 資格といっても免許などが必要ではなく、昔の中等学校卒業以上の学歴があって、校長が任命すればなれるのです。

司会 当時は他にも代用教員の先生がおられましたか、男の先生が戦争に行ったりして足りなくなったのでしょうか。

白石 そういう理由がありますね。

司会 しかしもともと師範の卒業生は、半年ほど現役に服すればその後の兵役は免除されたのではないですか。

白石 その制度は荒木文部大臣のときに廃止されてしまったんです。

司会 すると先生は師範に入学されたのは、南太田の後なのですね。 (支部長出席)

白石 そう、私はあその後で昭和 20 年に師範の二部に入ったのです。二部というのは予科を経ないで直接に本科に入るのです。

司会 その師範の本科とか予科とか、一部二部などの違いが良く分からないのですが。

石川 私は予科なのですが、高等小学校 2 年を終えて師範に入学するのが予科です。これが一部で、旧制中学卒業後又は 4 年修了で師範の本科に入学するのが二部です。

司会 予科の修業年限は何年ですか。またどんなことを教わりますか。多分中等学校的な普通学が中心だろうと思うのですが。

石川 予科の就業年限は三年です。でも私が入学した頃は二年に短縮されていました。

間辺 予科が終ると本科に進み、そこで直接本科に入学した二部の人と一緒にになります。本科では各自の希望により、専攻に分れ学級編成もそれによって行われます。私は美術だったの



師範学校男子部の鎌倉の校舎

ですが、美術の他に音楽と体育を専攻するものが6組という一つのクラスになりました。だからどの組かを聞けば、どんな専攻かおおよそ分ったのです。

司会 その専攻は、希望通りになったのですが。

間辺 だいたい希望通りになりました。

司会 師範学校は全寮制だったそうですが、白石先生のように本科に入学した人も寮に入ったのですか。



師範学校校門

白石 そうです。私も寮に入りました。

司会 一室に何人くらい入っていたのですか。

間辺 一室8人で、予科の場合例えば3年三人、2年二人、1年三人のように各学年の混成でした。

司会 そうすると食事にも三度とも寮で食べたのですか。

白石 寮は一寮から六寮まであったが、その六寮の角のところに食堂があり、食事時には太鼓が鳴って配膳役の予科生がしゃもじやおたまを持って集合したものです。

石川 予科1年の時は、軍隊で言えば初年兵だから遅れないように集まるのが大変だった。

間辺 上級生に「俺のところには飯をしっかり盛っておけ。」と言われると、その通りにしなければならぬので大変だったね。

白石 炊事係の人は、みんな太っていたね。炊事の責任者などはとても太っていた。だから炊事係は憧れの的だね。みんな飢えていたから炊事になりたがった。

司会 でも実際に食事を作るのは、賄いの係りの人が何人かいたのでしょうか。

白石 いや、賄いのおばさんが1人いるだけで、炊事係の生徒何人かで調理をしたのです。

司会 師範は昔は給費制度だったと聞きますが、食費などは払ったのですか。

白石 食費も授業料も一切払った覚えはありません。完全な給費制ですね。

司会 そうすると小遣いくらいしか必要ないのですか。

間辺 そう、必要なのは小遣いくらいですね。ただし俗にお礼奉公といって、三年か五年くらい教職に就く義務がありました。給費制で学費はかかりませんでしたが大変なこともありました。例えば風呂は上級生から順に入るのですが、時には風呂の湯が冷めてしまい、日なた水のような時もあった。それでも入らねばならぬので、ヤーッと掛け声をかけて入る。そんな時、師範の当時の校長木下先生と一緒に入ってくれました。

司会 私達の頃の寮は「蒼翠寮」という名が付いていましたが、その寮生がいろいろな学生らしい悪戯をしましてね。例えば源平池の鯉を捕まえて洗面器で煮て食べてしまったり、静御前が舞ったという舞殿で裸踊りをやって警官に捕まったりしましたが、戦争中はそんな悪さはしなかったんでしょう。

間辺 いや、やりましたよ。上級生が米粒を少し部屋の中に撒いて窓を開けておくと、米粒に誘われて鳩が入ってくる。それを捕まえて食べてしまいました。それから源平池の蓮の実を採って食べました。

司会 でも、蓮の実を採るなどは可愛いものですね。

白石 いやあ、みんな飢えて腹をすかせていたんですよ。当時は戦争末期の頃だから、ろくな食事は出なかった。

間辺 そう、飯にいろいろなものが混ぜてあったり、時には飯の代わりに薩摩芋2本とい

うこともあった。

白石 厚木とか海老名辺りに実家のあるものは、実家に帰った時に米を持ってくる。その米を藁缶に入れて飯を炊くんです。三寮の側にごみ焼き場があって、そこで炊いた。
司会 私も戦時中の国民学校(小学校)を経験しましたが、そこでは職員室に入る時に姓名申告をしないと入れないんですね。

間辺 師範でも全く同じです。と言うより師範のやり方を小学校が真似たのでしょう。私はある時職員室に入ろうとしたが、担任の先生の名前が出てこない。いつも仲間同士では先生のことを「たんぼう」というあだ名で呼んでいたもので、とっさに名前が出てこなくて弱ったことがあります。

石川 ああ、「酒井たんぼう」ね。

司会 その酒井と言うのは、カニで有名な酒井先生ですか。

間辺 いや、別の先生です。カニの酒井さんについてはおもしろい話があって、戦後のことです。先生はパチンコが大好きなんです。でも「僕は一人でパチンコ屋に入れなから、一緒に来てくれ。」と言われて、先生が立野に講義に来られた日には付属にいた私と、帰りに桜木町のパチンコ屋に一緒に行ったことがあります。

司会 先ほど職員室に入る際の申告の話が出ましたが、その他にも戦争中はいろいろな躰が厳しかったのではないですか。

石川 私が予科に入った時は、勤労働員か何かで2年生も3年生もいなかったの、気楽でしたがそのうち2年生が寮に帰ってきて、それから怖くて大変でした。

間辺 鎌倉の段葛を歩いていて、反対側を歩いている上級生に気付かなかつたら、欠礼したというので竹刀で殴られましたよ。冬にマフラーなどしていても叱られましたね。

石川 布団蒸しというのもあったな。

間辺 今だったら人権問題になりますね。私の同級生で、そういうリンチのようなことが厭でとうとう学校を辞めてしまったのがおります。殴られて悔しくてトイレで泣いたこともありますよ。

白石 寮の部屋に布団を入れる押入れがあり、その中で泣いたりした。厭なこともあったけれど、楽しいこととしては由比ガ浜での月見の宴というのがあったね。

司会 キャンプファイアをやったり、何か食べたりするんですか。

白石 いや食べない。火も焚かない。ただ集まって泳いだり歌を歌ったりするだけ。

間辺 当時の由比ガ浜は、一の鳥居から向こうは建物など何も無い松林でした。そこで集まって歌うだけで楽しかったのです。なにしろ不自由な時代でしたから。鎌倉から三浦半島一帯は横須賀軍港のある要塞地帯でしたから、スケッチ等も自由に出来ず、私は建長寺の山門を書くために師範の先生に横須賀鎮守府に許可申請の書類を出してもらい、やっと書くことが出来たくらいです。



昭和19年 勤労働員先の工場で

司会 私が高校生のところですから戦後10年近くも経っている頃、日野の公園墓地の中に「要塞地帯につき、撮影・スケッチを禁ず」という立て札がありましたよ。

(支部長退席)

白石 藤沢マラソン、藤マラというのがあったね。学校から深沢を通過して藤沢まで往復して帰って来る。帰ってきた時に何着かを記録する行事だった。

司会 で、ビリの方の成績だったら怒られるんですが。

白石 いや、別にそんなことは無い。

間辺 帰って来ると、紅茶だったか甘酒だったかを飲ませてくれましたね。しかし上級生は途中で江ノ電に乗って藤沢の近くで下り、帰りもまた大部分の区間は江ノ電に乗ってくるということをやっていた。私たちはそのことを知っていたけれど、上級生のやることなので文句を言えなかったね。

司会 で、先生方は終戦の時には学校に居たんですか。

白石 いや、工場に動員されていたから、学校には居なかった。

間辺 私たちも工場の後は藤沢の海軍の飛行場で、予科練の制服を着せられてそこに居たので、学校にはいなかった。

石川 私はそのとき家に居ました。当分学校に出てくるなどということなので。

司会 えっ、停学か何かになったんですが。

白石 いや、あの頃は食料が無くて、寮の食堂で食事を出せなくなり、家に戻されたんです。通学可能なものは自宅から通学せよということで、私も家に戻りました。

司会 やっと戦争が終わり、先生方が師範に戻って卒業される頃に六三制が始まり、新制中学ができたんですね。

間辺 私達が卒業する1年前に新制中学が出来ました。私は浜中学の校長が「卒業したら私の学校に來い。」と言ってくれたので、暇があると浜中に行っているいろいろな手伝っていました。浜中の校章はその頃に頼まれて、私がデザインしたものです。当時の師範はまだ復員しない先生がいたりして、授業も満足には行われていませんでした。

白石 私は昭和 22 年に卒業したが、戦中戦後の混乱期で満足に勉強できた覚えがない。卒業したら鎌倉の小坂小に赴任したのだが、「あなた方は新教育を教わってきたのでしょう。」と言われたが、実はなんにも分らない。指導法でもその他のことでも先輩のやるのを見て覚えたのです。ただ在学中は満足に勉強出来なかったが、児童文化研究部というサークルで県下の各学校を回って活動しました。学校を訪ねて紙芝居をやったり童話を話したりして、終わるとその学校に泊めてもらいました。

間辺 昭和 26 年に国大の 1 期生が卒業したのですが、私達の頃はまだ旧制の専門学校で大学卒の資格が無く、免許状も 2 級しか貰えませんでした。当時の制度では 1 級の免許でないと校長になることは出来ないとのことなので、勤務の傍ら大学の 2 部に通う人もいました。私もその一人でしたが中央大学に通って弁護士を目指した人もいます。こういうことをした理由としては資格の問題もありますが、戦中戦後に十分勉強出来なかったことによる知的なものへの飢餓感があったと思います。

石川 私は卒業後どこにも通わなかったが、後に制度が改められて 15 年勤続すると 1 級の免許状がもらえるようになりました。

司会 本日はわざわざお集まりいただき、貴重な体験をお聞かせ頂きましてありがとうございました。これで本日の座談会を終らせていただきます。

